

内子ねき歩き参加者募集中!

ねき歩き専属ガイドがご案内するまち歩き。暮らす人がいる分だけ、独自の文化や歴史があります。楽しく、ゆっくりと、内子の魅力を紐解くねき歩き。皆様の参加をお待ちしています!

申し込みはホームページから!

🔍 **ねき歩き** で検索!

www.we-love-uchiko.jp/stroll/stroll4/

※ 詳しくは内子町公式観光サイト「内子さんぽ」をご覧ください。

🔍 **内子さんぽ** で検索!

www.we-love-uchiko.jp/

まち歩きアプリのご案内



ねき歩き全コース上で
ナビゲーションサービス
をご利用いただけます。



QR Translator



Scan to get the info in
your own language.

TOUR 02

Uchiko Guide Tour #02

Uchiko-Bito

There are bountiful episodes of those who came before, such as those who played highly ambitious roles in the central government, the wealthy gentlemen who founded Uchiko-za Theater and a doctor who committed himself to fostering youths.



コース

内子 と びと

内子ねき歩き





専属ガイドツアー
内子ねき歩き

内子びとコース

大通りから一本入った通りを歩きながら先人の心を辿るコース。芝居小屋内子座を建てた旦那衆や、若者の育成に力を尽くした医師、志高く中央政界で活躍した先人話などがこぼれます。

ねき歩きガイドとかつての「内子びと」に思いをはせながら、歩いてみませんか。

Neki Aruki♪



「ねき歩き」とは？

「ねき」とは、内子の方言で「近く」「近場」のこと。近くの小エリアを愉しむ新たなまち歩きです。

所要時間 100分 距離 600m

参加費 お1人様 2,000円

(★お茶処でのお茶代や、内子座・商いと暮らし博物館の入館料を含みます)

定員 1~15名

集合場所 内子町ビジターセンター
(内子町内子2020)

集合場所までのアクセス

- ① JR内子駅から徒歩約10分。
- ② 内子・五十崎ICから車で約3分。
ICより国道56号線を右折し松山方面へ。
まちの駅 Nanze 駐車場をご利用ください。

※集合場所の位置は中面マップに記載しております。

申込方法

内子町公式観光サイトの「おさんぼコース(ガイド付き)」を確認の上、ホームページからお申し込みください。

www.we-love-uchiko.jp/stroll/stroll4/

ねき歩き で検索!

問い合わせ先

内子町ビジターセンター(A・runze)

☎0893-44-3790

FAX0893-44-3798

〒791-3301 愛媛県喜多郡内子町内子2020番地
開館 9:00~16:30(4~9月17:30) 木曜休館

散策の際には歩きやすい服装と靴でどうぞ。
また、車などに充分注意し、各自で責任を持って行動してください。

内子ねき歩き 断

高橋龍太郎の足跡 麦酒とスポーツ

語り手 文化交流ヴィラ高橋邸 大野千代美さん

明治の麦酒産業黎明期時代、日本の麦酒会社は、ドイツ人技術者を高額な給料で雇い生産していました。高橋龍太郎が就職した大阪麦酒も同様で、龍太郎いわく「なかなかその技術を日本人に教えてくれなかった」そうです。龍太郎が、ドイツ語という言葉の壁を克服し、6年間もドイツに留学し麦酒醸造や生産に必要な機械の設計、施工などを学び、日本人による麦酒醸造の技術的な基礎づくりを果たした意義は当時としては画期的なことでした。

龍太郎は、社長をつとめる大日本麦酒が昭和20年(1945)の敗戦により財閥解体で朝日麦酒(現アサヒビール)と日本麦酒(現サッポロビール)に分割されるまで、明治、大正、昭和と長きにわたり麦酒一筋の人生をおくりました。

一方、書や将棋にも造詣が深く、書は若い時は「肱水」晩年は「在田」と号し多くの作品を残しています。将棋は、名人阪田三吉(1877-1946)に習い、門下生でありながら、三吉を支えた支援者でもありました。三吉が名人になる時は、推薦人の

一人となり、死後は私費を出して大阪の服部霊園に三吉の墓を建立しています。

スポーツ好きでも知られ、プロ野球の発展のためにと懇願されて「高橋ユニオンズ」を創立しています。個人の名前を冠するプロ野球チームは野球史上唯一といえます。チームは3年間で解団しますが、ホームグラウンドの川崎球場には時間のゆるすかぎり応援に来て、選手にとっても「オーナーの応援は励みとなった」といいます。また、「サッカーの本質がよいものであるから、将来はヨーロッパのように青年のスポーツとして、たいそうな勢いで隆盛におもむくことは疑いない」との信念から三代目会長を引き受け、その功績は東京の日本サッカーミュージアムに設置されている日本サッカー殿堂に掲げられています。

日本の麦酒産業を発展させるといふ夢を着実に実現し、好きな将棋やスポーツの発展に貢献した龍太郎の生涯は苦難はあれど充実した人生であったことと思います。

龍太郎の幼少期を育くみ、政財界人として活躍するようになってからもたびたび帰ってきたという内子の生家は、平成5年(1993)に町に寄贈され「文化交流ヴィラ高橋邸」として一般公開されています。



文化交流ヴィラ高橋邸外観

内子びとコース

高橋龍太郎生家 (文化交流ヴィラ高橋邸)

高橋龍太郎(1875~1967)は、日本のピル王とよばれた実業家です。明治31年(1898)京都第三高等学校(現京都大学)を卒業後、大阪麦酒会社に入社。ドイツで6年間ビール醸造技術を習得し、帰国後は世界三大ビール会社のひとつにまで発展させました。

政界でも活躍し、昭和26年(1951)吉田内閣の通産大臣として戦後の荒廃した日本経済の復興に当たりました。

またスポーツを愛好し、日本サッカー協会会長やプロ野球・高橋ユニオンズのオーナーを務めました。(詳細は内子ねぎ歩き囃を参照)



⑧ 安達玄杏の碑



安達玄杏(1838~1891)は、内子で学ぶ後輩たちの育成に力を注いだ医師です。天保9年(1838)に重松村(現内子町)で生まれ、医学やオランダ医学を修学し、従来の蘭医では時勢に遅れると悟り、新しい医学の研究に専念。開業後は病院経営をしながら、村の発展には青少年の育成が第一と考え、私費を投じて東京に「安達社」を設け、育英事業を創立しました。

明治28年(1895)、松山中学校(現在の内子尚武会)に松山の後輩を中心に創立された内子尚武会。「郷土の発展を心球なる身の向上」を目的としていた。野分や運動会、演説や機関雑誌の発行と多彩な活動をしていた。昭和15年(1940)、安達の遺志を継ごうと、安達玄杏先生公徳50周年祭を主催。

⑦ 八幡神社

室町時代、天文11年(1542)に創建された八幡神社。大分の宇佐八幡宮から勧請し、六日市村(現内子本町通り)の氏神として崇められました。かつて門前の太鼓橋の下は、お堀だったともいわれます。

弘化4年(1847)、新谷藩の岩田清謹が八幡神社に奉納した算額があります。江戸時代中期には、この地域に和算が伝わり、問題に取り組み学者がいました。



⑥ 商いと暮らし博物館

薬局を営んでいた佐野家を活用し、大正時代の商いや生活の様子を再現したのが、「商いと暮らし博物館」。奥には旧内子全体の歴史資料も展示されています。

⑤ 御蔵小路 (病院通り)

かつて大洲藩の専売品として紙が漉かれていた頃、このあたりに紙役所(蔵)が置かれていました。和紙は、生産者から紙役所を経て、大阪中之島大洲藩蔵屋敷へ納入されていました。

病院通りと呼ばれる由縁は、明治12年(1879)、医師安達玄杏がここに近代的な病院を開業したことにあります。

④ 重岡薫五郎の墓 (禅昌寺)

重岡薫五郎(1864~1906)は、衆議院議員を5期務めた政治家です。少年時代は、禅昌寺の住職から勉強を教わり進学。その後、「自分の一生をこの田舎で朽ち果てる気になれない。国のために重岡家のため素晴らしい人間になりたい」と、上京することを父親に懇願したといわれます。明治20年(1887)、松山始審裁判所判事補になった薫五郎ですが、わずか10日間で退職しフランスへ留学、法学博士の学位をうけ28歳で帰国しました。

31歳の若さで国会議員に当選し、大隈内閣の外務省通商局長、文部省官房長官に任命されました。後に子孫が黒田精輝作の肖像画を内子町に寄贈しました。



① 伊勢舎跡

かつてこの地(現内子児童館及び内子町ビジターセンター)に伊勢神宮を勧請した伊勢舎があり、近隣の人々がお伊勢参りに訪れました。お堀や門、本殿、御師の詰め所などがあり残っている図面や修理の記録から、広い敷地であったことがわかります。江戸時代の宝暦12年(1762)、寛政2年(1790)と2度にわたる大火により消失し、往時の面影を残すのは井戸のみです。現在の商店街は、伊勢舎があった時代、門前町として栄えた頃の名残りともいわれます。



スタート&ゴール (集合場所) 内子町ビジターセンター

まちな駅 Nanze

② 内子座

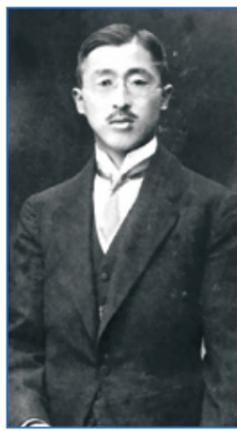
内子町立内子小学校

旧国鉄内子駅

③ 高畑誠一一家跡 (本町広場)

高畑誠一(1887~1978)は、28歳の若さで神戸の商社「鈴木商店」のロンドン支店長に抜擢され、一時は三井物産を越える年商達成に貢献した経済人です。戦後復興、高度経済成長を支え、大正11年(1922)には、日商(現・双日)を創立し初代社長となりました。ロンドン支店長時代には、皇帝が商人になったような男だといわれました。

また、日本におけるゴルフの草分けとしても有名で、昭和50年(1975)開業の愛媛ゴルフ倶楽部内子コースの建設に協力しました。



郷之谷川 シダレザクラ

ねぎ歩きコース内スポット
その他のスポット